トーマス・ヘル　プロフィール

ドイツ・ハンブルグに生まれる。 ハノーファー国立音楽演劇大学で、 イギリスの名ピアニスト、 デビッド・ワイルド氏に師事。 国家演奏家資格課程(Konzertexamen)を最優秀で卒業。 同時にピアノ教育学、作曲、音楽理論のディプロムも最優秀で取得。その 他、芸術的に重要な薫陶 をエ リカ・ハーゼ、コンラート・ハンゼン、クラウス・ヘルヴィッヒ、ギュンター・ルードヴィッヒ、 コレット・ツェラから受ける。1992 年、全 ドイツ国立音楽大学コン クール デュオ部門(ウァイ オリン/ピアノ)第 2 位。 1996 年オルレアン国際ピアノコンクール 第 1 位等、数々の国際コ ンクール入賞。

15 歳から定期的にオーケストラと共演し、ペーター・ルンデル、 ルーカス・フィス、ジャン・ マ ルク・コーシェロー、大植英次、 トーマス・ウンガー、児玉宏、ダニエル・インバル、ショー ン・エドワーズ、下野竜也なとの指揮者と共演し ている。ヨーロッパ各国の主要な国際音楽祭(ラジオフラン ス・モンペイエ音楽祭、ドレスデン現代音楽祭、ダルムシュタット国際現代音楽夏期 講習会、 シュトゥットガルト・エクラー音楽祭、デンマーク・ボルンホルム音楽祭なと)にも数多 く出演。 2000 年には M・レーガーのバッハ変奏曲 Op.81 と R・シューマンのフモレスケ Op.20 の CD をリリース。

古典から現代音楽まで幅広いレパートリーをもち、とりわけエリオット・カーター、アルノル ト・シェーンベルク、ルイージ・ダッラピッコラ、チャールズ・アイヴズ、ピエール・ブーレーズ、ジェルジュ・リゲティといった 20～21 世紀の現代音楽を得意とし、ヨーロッパの主要な作曲家たちからの信頼も厚く、数多くの初演を手がけている。

2008 年のダルムシュタット国際現代音楽夏期講習会では、リゲティの〈エチュード〉全 18 曲を 演奏し聴衆を大いに沸かせ、リゲティと親交の深かったジェルジュ・クルターグ氏にも絶賛され た。2009 年、シェーンベルクの弟子であるシュトイアーマンへのオマージュという CD のリリー スに あたり、シュトイアーマンの組曲 5 曲を演奏収録し、2010 年度ドイツ・レコード評論家大 賞を受賞。2010 年 11 月には東京三軒茶屋の音楽祭テッセラの秋 にて、原田敬子の一台のグランドピアノのための　<4 つの手>I-III を世界初演

(共演:廻 由美 子)と リゲティの〈エチュード〉 全18曲を演奏し、話題を呼ぶ。音楽ジャーナリストの池田卓夫 氏は、東京で行われたこのコン サートを『音楽の友』誌2010年ベスト・コンサート第一位に挙げている。

ソリストとしてだけでなく、室内楽の活動も積極的に行っており、ヨーロッパ各地の名高いホールに出演している。現代音楽のためのアンサンブルピアニストとしても活動。深い知性に支えられた圧倒的な音楽表現と血の通った温かみのある千変万化な音色による演奏は、現代作曲家や音楽家、評論家から全幅の信頼と評価を得ている。
2011年秋にバルトークの〈ヴァイオリン・ソナタ集〉 2枚組みCDをTACETよりリリース。 2009年には、シェーンベルクの弟子て、指揮者ミヒャエル・ギーレンの叔父にあたるシュト イアーマンの組曲5曲を収録したCDで、ドイツ・レコード評論家大賞を受賞している。カメ ラータ・フレーデンと共演したCD、 コンコルド作曲『ピアノ五重奏曲 作品15』は、2012年ドイツ・レコード評論家「室内楽曲部門」のベ スト・ディスク賞を受賞。2012年秋、リゲティの 全曲〈エチュード〉のCDをWERGOより リリースし、2013年レコード芸術2月号では特選盤 に選定される。

2016年には難曲で知られるアイヴズのコンコードソナタがPiano Classicsよりリリースされた。

国内外で、精力的にマスタークラスや演奏を交えた作品解釈の講演を行っており、2001年よりハ ノーファー国立音楽演劇大学、2011年 よりシュトゥットガルト国立音楽芸術大学にて教鞭をとっ ていたが2016年より、マインツ音楽大学のピアノ科及び室内楽科教授に就任した。

トッパンホールでは、初登場となった16年6月のリゲティ《エチュード》全曲演奏で鮮烈な印象を残し、2018年「異才たちのピアニズム」というシリーズに出演。
２０１９年は中国、天津にてリサイタル、マスタークラス、コンクール審査に携わる。

２０２０年からのコロナ禍の始まりによって、全世界においてコンサート活動が制限される中、オンラインでのコンサートや、マスタークラス、コンクール審査等、多岐に渡り活動の場を広げている。特に、韓国のソウル芸術大学とのオンラインでのマスタークラスは、リアルタイムで全世界で視聴可能となり反響を呼んだ。

世界的ピアニスト、アルフレート・ブレンデル氏より

=中略抜粋=

トーマス・ヘル氏は注目されてしかるべきピアニストです。彼がタルムシュタット(タルムシュタット国 際現代音楽夏期講習会 Darmstädter Internationale Ferienkurse für Neue Musik) で行った、リゲ ティのエチュード全曲ライヴ演奏は、私が近年聴いた比較的若い世代のピアニス トのなかで、もっ とも感銘を与えた演奏の一つでした。彼の演奏は、まさに知性とヴィルトゥ オージティの両面を兼 ね備えていました。

ハンガリーを代表する大作曲家、ジェルジュ・クルターク氏より

=中略抜粋=

彼は、ジェルジ・リゲティのエチュード全曲を演奏したのですが、それ自体がすでに偉業である上 に、その演奏は圧倒的な強烈なものでした。特筆すべきは、リゲティの音楽を理解し、それを解釈 し、最高度の演奏技術をもって演奏する彼の特別な才能です。このことを、私はことのほか強調し たいと思います。 それと同時に、私は彼の演奏による《ディアベッリ変奏曲》の録音も入手し、その演奏を聴きました が、トーマス・ヘル氏がベートーヴェンの音楽語法も(リゲティと同様)深く理解し、身をもってよく知 っていると、確信いたしました。 以上のことから、彼がオールラウンドな(=時代を問わず、すべての音楽に才能を発揮することの できる)音楽家であることが、 はっきりと証明されます。

世界的指揮者ミヒャエル・ギーレン氏より

私はトーマス・ヘルの素晴らしい録音 エドゥアルト・シュトイアーマンの「組曲 1945」を聴きました。この作品はピアニスティックな観点からみても、音楽的な観点からみても非常に手の込んだ複雑な作品ですが、それをヘル氏は素晴らしく絶妙に巧みに巨匠のごとく演奏しています。このような稀有なピアニストは大きなキャリアを築いてしかるべきであります。いずれにしても、全ての助成団体や音楽関係者にとって、非常に価値のあるピアニストです!心より彼のご多幸とキャリアの発展を願っております。

邦訳:野本由紀夫

(玉川大学芸術学部教授/前・桐朋学園大学音楽学部助教授/NHK「名曲探偵アマデウス」監修)